
伊勢昌子さん

高校 20回生

卒業して50年余り、青春を振り返る年齢になりました。先生方に、ご迷惑をおかけしたエピソードを2件ご紹介します。

その1、レオナルド ダ ヴィンチの「受胎告知」を見るたびに思い出します。

キリスト教育を受け始めた中学生の時、独身の牧師の先生を、赤面させる質問を繰り返していました。その後、男女を描いた文学作品にのめり込み、文芸部員として8年間活動しました。結果、読書が好きになりました。

その2、交換留学生 テリーダイアナさんの登場でした。彼女に教えた最初の日本語は、「腹へった 飯 食わせ！」でした。その時は生きていく上での最善の言葉だと思いました。職員室に彼女を連れて行き、先生方の前でこの言葉を言わせ、反応を楽しみました。もちろん先生方から叱られ大いに反省しました。しかしダイアナさんと共に学んだ1年間は、外国人と対等に話す自信にも繋がり、互いにファーストネームで呼び合う習慣が身につきました。1969年8月 ヨーロッパ10ヶ国を巡る豪華な修学旅行は毎日が夢のような斬新な経験でした。その後も機会あるごとに、各国を再訪し、思い出を紐解いています。結婚後はシンガポール、アメリカ、イギリス、ドイツ、北京と夫の転勤に帯同し、25年の海外生活を楽しめたのも、学生時代の貴重な経験の賜物だと思っています。松蔭で学べた事に感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。